

各関係機関の長 殿
各病害虫防除員

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和6年度病害虫防除情報第3号

かんきつそうか病および黒点病について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**かんきつのそうか病および黒点病の発生が多くなっています。
薬剤散布や感染源の除去など適切な防除対策を行いましょう。**

- 1 作物名 かんきつ
- 2 病害虫名 そうか病、黒点病

3 発生状況(経過)

(1) そうか病

5月中旬の巡回調査における春葉の発生面積率は22.2%（平年3.4%）、発病度は2.0（平年0.1）、発病葉率は5.7%（平年0.5%）でいずれも平年と比較して多であった（図1、2）。

(2) 黒点病

5月中旬の巡回調査における春葉の発生面積率は5.6%（平年2.8%）で平年と比較してやや多、発病度は0.4（平年0.1）、発病葉率は1.9%（平年0.3%）でいずれも平年と比較して多であった（図3、4）。

(3) 今後梅雨入りに伴い、本病に好適な条件が長く続くことが予想され、発生拡大が懸念される。

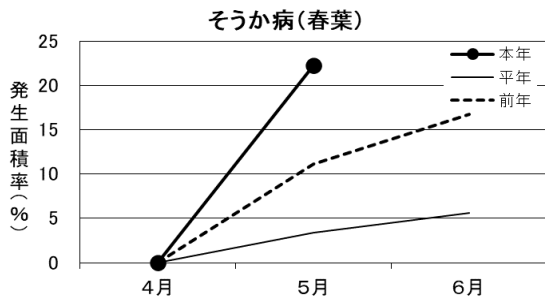


図1 発生面積率の推移（そうか病）

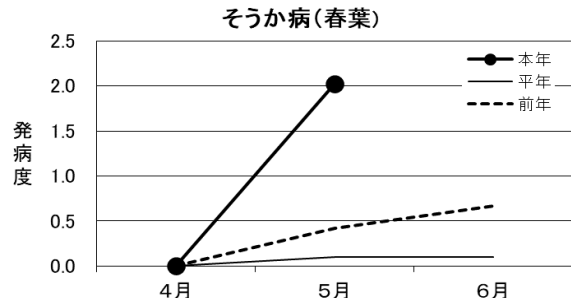


図2 発病度の推移（そうか病）

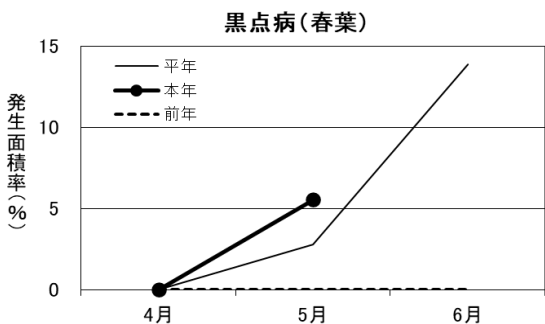


図3 発生面積率の推移（黒点病）

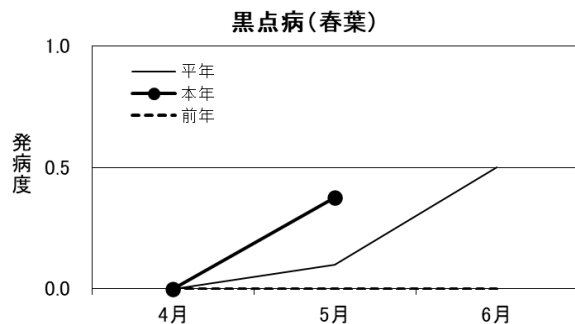


図4 発病度の推移（黒点病）

4 防除上の注意

【そうか病】

- (1) 本病は糸状菌 (*Elsinoë fawcettii*) により葉、果実、枝に発生し、特に温州ミカンやレモン等で被害が大きい。通常の年では6月中旬頃までに葉での発病は見られなくなるが、葉の病斑上にできた胞子が落弁後の幼果に感染し、病斑を作って二次伝染を繰り返す。果実における主な感染時期は5月中旬～7月下旬頃で、雨が多いと発病が多くなる。
- (2) 落弁期と幼果期に薬剤散布を行う。降雨が長く続くと、発病が助長されるので、雨間をみて散布を行い、散布適期を逃さないようにする。
- (3) 伝染を繰り返さないために、病斑が多発している枝葉はできるだけ剪定・除去を行い、伝染源を少なくする。
- (4) 窒素肥料が多すぎると発病しやすくなるので、多肥にならないように注意する。

【黒点病】

- (1) 本病は糸状菌 (*Diaporthe citri*) により葉、果実、枝に発生し、果実への感染時期は6～10月である。
- (2) 果実への被害を防ぐために、防除適期を逸さないよう継続して防除を行う。
- (3) 伝染源は保菌した枯れ枝であるので、枯れ枝の剪定・除去を行い伝染源を少なくするとともに、肥培管理に注意し、樹勢の強化・枯れ枝の発生抑制に努める。
- (4) 防除の目安は、薬剤散布後の積算降水量が250mmを超えた時点であるが、降水量が少ない場合でも、薬剤散布の30日後には次の防除を実施する。
- (5) 降雨によって発生が助長されるので、降雨前の薬剤散布を徹底する。
- (6) 降雨が続き晴天がないような場合でも、雨間散布により防除効果が期待できるので防除適期を逃さないよう防除を行う。また、降雨がなく晴天が続く場合でも、本病の更なる被害拡大を防ぐために定期的に薬剤防除を行う。

5 その他

○6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

○病虫害防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。

https://hinatamafin.pref.miyazaki.lg.jp/soshiki/noshi_byogai/index.html



《連絡先》 宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課 (病虫害防除・肥料検査センター) 久野 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
